

第4回 高2英語

総 評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **d** が多かった。音声に出てきた **bonus** につられないこと。

問題B

Part 1 (4) 2 つともできて与点した。(ア) は割合よくできている。**kemical** や **cemicle** などのスペリングミスに気をつけたい。(イ) **point** とした誤答が散見されるが、直後に名詞 **pleasure** があるので、形容詞が入ることに注意しよう。

Part 2 それぞれ、完全に書けて与点した。

(ア) **whether it is resulted on** や **whether it is a result** など、弱く発音されて聞き取りにくい単語がやはり書けていない。(イ) でも **to** を聞きもらした **I can learn** (ハ) **avoid** や **I can learn to avoid to** などの文法ミスが見られた。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) 誤りの多い解答では、最後の3つの並べ替えで苦戦している解答が目立つ。**best** を入れる位置が難しかったのかもしれない。ここの **best** は副詞である。また **each** の位置を **the one** の前後に置いた誤りも多かった。**one** が何を受けるかも確認が必要で文脈の理解が不可欠だった。

(2) 誤りの多くは **those** が人々を指すと気づいていなかったと推測される。例えば, **those (who are) rich** で「裕福な人々」の意味を表す。**not inaccessible** と続けた解答もあったが、文脈と合わない。

(3) は倒置が起こる場合を見抜けるか試す出題。**Not until** ～を文頭に出すことに気づいていた受験生もいたが、**ア** (**appeared did**) → **エ** (**the phonograph**) と倒置の箇所を誤った答案が多かった。

(4) (5) は比較的よくできていた。決まったイディオムをおさえておこう。

問題B 和文英訳

企業の学生採用をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

④基本事項を確認する目的でこの小問を作った。「どこの大学を出たか」「大学で何を学んだか」では間接疑問文を使って表す場合、**what university did students graduated from / what did students study** など間接疑問文の形が徹底できていない解答がまだまだ目立った。

⑤まず「のどから手が出るほど」という表現をどう英語で表せるかを見た。訳出されていないものは減点としている。直訳している解答も一部見られたが、概ねここは意味を汲み取れていた。受験生の中では **really** が多かったが、副詞を使わない **be keen to … ; be anxious to …** なども広く許容した。「対応する」は解答・別解以外では **cope with** ～ ; **address** など有効である。「日々」は **every day** と2語で表すべきところを **everyday** と1語で書いているものなど細かいミスも避けたいところであ

る。

©「～だからだ」という日本語を見て、単独の Because 節を使った答案が散見された。Because S + V ～という形で単独で使えるのは、Why …? で問われた時の返答で用いる場合である。誤答の中には This is why S + V ～ (そういうわけで～) も多かった。「生き残り」を survive (動詞形) と書いている答案が目立った。「かかっている」を depend on を進行形で表しているものがあつたが、通例進行形は使えない。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今年のテーマは、受験生にとってなじみのある話題であつたせいか、内容は考えやすかつたのではないだろうか。今回は DVD にすることに賛成か反対かを問うもので、DVD と紙〔冊子〕の卒業アルバムのどちらも欲しいなどの解答は基本的に許容しなかつた。解答例・別解の他に、賛成・反対例として「DVD は紙〔冊子〕に比べてデータが多く入れられる」「DVD は壊れると見られない」「DVD は小さくて失くしてしまうかもしれない」などが書かれていた。だが「DVD は紙〔冊子〕に比べてたくさんのことを思い出す」でとどまっているなどその理由、主張のサポートがないものも多い。1つのことを掘り下げて書ける力も養う必要がある。今後のために、形式面で指摘をしておきたい。第1文(I agree with the idea.)と最終文(So, I agree with the idea.)ではほぼ同じ文が重複する解答例が見受けられた。学校等でも指摘されているとは思いますが、本問のように語数の少ない場合は同じ文の重複は避けたほうがよい。

4 長文読解

「思考は思考にすぎず、現実ではない」「思考が感情を作っている」さらに「想像したことが現実のものではないことに気づけば人生の悩みを減らせるだろう」と説く自己啓発本からの出題。深く思考することを否定しているわけではないだろうが、思考により生まれた否定的な感情に心を乱されることなく人生を送ってほしいという内容である。

(1) 下線部直後の文を2つに分け、それぞれのポイントを正しくまとめられているものに点を与えた。各ポイント中での誤訳はポイント分の減点で、原則として部分点はナシとしたので、点差が開いたと思われる。設問は「友人の離婚」について聞いた時の具体的な「思考」について述べることを求めている。具体的でなく下線部の和訳に終始したものや、仮定法の2つの節をふまえた説明になっていないものが目立ったが、細かい点はどうあれ、「同じ出来事でも違った視点から考えると違う感じ方になる」という著者の主張自体は理解できている答案も見られた。

(5) 文章全体の主旨を問う問題だが、比較的良好にできていた。

5 長文読解

人間の声を電子的に合成する技術の進歩と現状について述べた文章。カーナビなどの案内音声の思い浮かべながら読むとわかりやすいだろう。

(1) pronounced quite differently の修飾位置がわかっていないものが見られた。解説にもあるように、文法的には a noun for a heavy metal を修飾するので「発音のまったく異なる～名詞」のように訳すとよい。「コンピューターはどのように区別して発音すべきか」のように a computer を主語、pronounced quite differently を述語として続けて訳してしまったものが目立つ。heavy metal は専門用語に近いので「ヘビーメタル; ヘビメタ」などの誤訳はいたしかたない。

(3) 空欄ではなく解答してある答案は概ね理解できているものが多かった。

(4) pass over ～や build の不適切な訳が多い。

(5) f はよくできているが、c の代わりに d を選んだものが多い。

第4回 高2数学

総 評

今回は以下の分野から出題した。

「高次方程式」「三角関数」「対数関数」

「場合の数・確率」「積分法」

「ベクトル」「数列」「図形と方程式」

レベルとしては、易 ～ 標準 ～ 難と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっていても、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) アでは、 $3x-2$ や x を答えとする答案が散見された。またイでは、 0 とする答案が見られた。これを機に剰余の定理を復習しておきたい。

(2) ウは比較的良好にできていたが、エは B と D を取り違えて $\frac{7}{12}\pi$ を答えとするなど、惜しいものが見られた。

(3) 特にカの出来はよくなかった。 $0 < y \leq a$ とする答案が多く、真数条件に気づいているだけに残念だ。ここでは、 $\log_a y$ も真数になっていることから、不等式 $\log_a y > 0$ も解く必要があった。

(4) 場合の数と確率の問題である。キの誤答では 60 が非常に多かった。問われているのは生徒の組合せだから、じゃんけんの手の出し方を考える必要はないことに注意しよう。

2 積分法

積分法を利用して面積を求める問題。

(1) 場合分けをして絶対値記号を正しくはずせていないもの、はずせたとしても場合分けの条件をみたすのか確認が足りないものなど、全体的に苦手な様子が出ていた。よく復習しておいてほしい。

(2) 定積分を利用して面積を立式しても、途中の計算でミスが目立った。ミスをしないような計算の工夫や解答の書き方をもう一度見直しておこう。

(3) 整数の性質に関する問題。できているものは「解説 C」の方法が多かった。いろいろな方法で考えることができるので、「解答」や「解説」を参考にしてほしい。

3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。

(1) 三角形の外心と重心を混同している答案が散見された。垂直二等分線の交点であることに気づけるかどうかのカギ。

(2) (i) 与えられた垂直条件を内積を用いて表したあと、それをどのように利用するかで明暗が分かれた。

(ii) $\triangle ABC$ の面積を面積公式を利用して直接求めようとする答案が多かった。図形的な考察を加えることで処理量を減らすことができるので、このような視点を是非身につけてほしい。

4 数列

数列の和の性質を利用して、数列の和の最小値を求める問題。難易度は高めである。

(1) よくできていた。

(2) 数列 $\{a_k\}$, $\{b_k\}$ の一般項を代入して計算した答案では、途中でミスをするものが多かった。

(3) (2) の式をすべて展開してしまい、数列 $\{x_k\}$ と数列 $\{b_k\}$ が一致するとき最小であることの説明不足が見られた。論証の仕方を身につけてほしい。

5 図形と方程式

図形的な条件と数式の条件の読み替えや数式の処理力が要求され、難易度は高めである。

(1) 「解説」のように垂直に着目するまではよかったが、こう読み替えると頂点での場合分けが必要なことを見落としてしまうようだった。

(2) (i) $\frac{y}{x-3} = k$ とおくことは比較的良好にできていた

が、円 C と放物線 P の位置関係やその2つのグラフに囲まれる領域 D を正しくつかめていないものが目立った。

(ii) 白答以外の答案では、図形的な条件を方程式の条件に読み替えることができていた。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40 点)

いずれも答に

- (1) ア：5点、イ：5点10点
- (2) ウ：5点、エ：5点10点
- (3) オ：5点、カ：5点10点
- (4) キ：5点、ク：5点10点

2 (40 点)

(1) (10 点)

C_k を場合分けして処理して 各2点
答に 各2点

(2) (15 点)

定積分を用いた面積の立式に 各3点
定積分の計算に 各1点
答に 3点

(3) (15 点)

$S(k)$ の分子が6の倍数となることに 2点
連続する整数の積に変形, 説明して 6点
 $k-1$ が6の倍数となることに 4点
答に 3点

3 (40 点)

(1) (10 点)

P, Q, R が中点であることに 各2点
答に 4点

(2) (i) (15 点)

両辺の絶対値をとって2乗して 5点
垂直の条件をベクトルで表現して 2点
外接円の半径の条件より 2点
 k の2次方程式として処理して 3点
答に 3点

(ii) (15 点)

$\overrightarrow{OA}$ を変形して $OD : OA = 5 : 7$ に 4点
 T の式に 4点
 S の式に 3点
答に 4点

4 (40 点)

(1) (10 点)

答に 10点

(2) (15 点)

$a_k + b_k$ が定数となることに 2点

$\sum_{k=1}^n x_k = \sum_{k=1}^n k$ 2点

$\sum_{k=1}^n x_k^2 = \sum_{k=1}^n k^2$ 2点

与えられた式を n で表して 6点

答に 3点

(3) (15 点)

$\sum_{k=1}^n a_k x_k = \frac{1}{6}n(n+1)(n+2) + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n (x_k - b_k)^2$ に 4点

$\sum_{k=1}^n (x_k - b_k)^2 \geq 0$ に 2点

$\sum_{k=1}^n a_k x_k \geq \frac{1}{6}n(n+1)(n+2)$ に 2点

等号が成立するときに 4点

答に 3点

5 (40 点)

(1) (10 点)

A と放物線上の点の距離の式に 2点

平方完成して 2点

最小となるときに 2点

答に 4点

(2) (i) (15 点)

領域 D を図示して 4点

$\frac{y}{x-3} = k$ において, $y = k(x-3)$ が $(3, 0)$ を

通る直線であることがわかって 2点

点 $(2, 1)$ を通るときの k の値に 2点

放物線 P と接するときの k の値に 4点

答に 3点

(ii) (15 点)

円 C の式に 2点

a について整理して 3点

a の2次方程式が

$0 < a < 2$ に異なる2解をもつ条件に ... 各1点

領域を図示して 6点

第四回 高二国語

総評

例年に比べ、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子がうかがえる答案が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、a「顧慮」を「考慮」「固慮」、e「包摂」を「包節」「包説」などと誤るものが目立った。しっかりと復習しておく。

二 〔採点基準〕

「a 非正規雇用者として b 補助業務に従事する」という c 雇用形態」を押さえて—— 9 点
* a 部 3 点、b 部 4 点、c 部 2 点。

「基幹的な職種以外の仕事（パートや派遣労働者）」という方向でまとめている答案が多く、a・c の要素を網羅できているものは少なかった。解説をよく読み、傍線部前後の文脈を押さえておくこと。

三 〔採点基準〕

「a フリーターのネガティブ・イメージを b 若年男性に c 負わせ、d 一人前の職業人としての自覚が薄い者 c というレッテルを貼り、e 彼らを正規雇用 に値しないと企業が見なす」という点を押さえて—— 14 点

* a d 部各 3 点、b 部 1 点、c 部 2 点、e 部 5 点。

「若年男性を正規雇用から排除する」という大枠は押さえられている答案が多かった。どのような枠で排除されているのか、制限字数に合わせて解答を作成するのは難しかったかもしれない。若年男性がどのようなレッテルを貼られているのか、解説を読んで整理しておく。

四 誤答が目立ったのはイ。解説で示した通り、「フレスビル」の語義を押さえて選択肢を検討することが求められる。問題文中の表現が含まれる選択肢をそのまま選ぶのではなく、傍線部の正確な意味を押さえて検討しよう。

五 〔採点基準〕

「a 解剖学的性差に基づく男性の正規雇用は止めて b 競争に勝った男性を〈真の男性〉と見なし、正規雇用者にする」という点を押さえて—— 14 点
* a b 部各 5 点、c 部 4 点。

「男同士の絆」〈真の男性〉というキーワードをどう説明するかに苦勞している答案が多かった。〈競争に勝ち残れば誰でもそこに加わることができる〉と

前向きな方向でまとめている答案も見受けられたが、問題文末尾の結論を踏まえれば、〈家父長制論理に立脚した上で、競争に勝った男性のみを選別する〉ということになる。自分の答案が押さえられていなかったポイントを確認しておくこと。

六 誤答は分散していたが、やや目立ったのはウ。「ネオリベリズムなジェンダー秩序の論理」とは、「近代的性別分業イデオロギー」を単に肯定するだけではなく、さらに選別を加えるというものになっている。解説をよく読み、正答選択肢を確認しておく。

二 小説

一 a b c ともにだいたいよくできていたが、b の「性懲りもなく」は、a の「余儀なく」、c の「融通」などと比べると多少なじみが薄かったのか、アイウの誤答が散見された。「性懲り」の「性」は〈本性〉のことで、〈心の底から懲りること〉を意味する。

二 〔採点基準〕

「a あまりにも頻繁に父からカメラのレンズを向けられていた母を b 気の毒に思う一方、c そこに潜んでいた母に対する父の愛情を d ほほえましく感じている心情」という点を押さえて—— 11 点
* a b c 部各 3 点、d 部 2 点。

「母」に対する心情」だけを答えている答案も目につくが、設問には〈父母に対する心情〉とあるので

で、〈父と母に対するそれぞれの心情〉、あるいは〈父と母の関係に対する心情〉として答えたい。そうした細かいところに気をつけて解答できるようになれば、点数は伸びる。

三 全体的に、〈私がそのように感じた理由〉をよく読み取れている。イと答えた人が少数いるが、少々考えすぎてしまったのかもしれない。娘である「私」は、〈母が幸せだったこと〉を疑ってはいない。

四 こちらもよくとらえられていたが、前問の三よりも選択肢が紛らわしかったようで、イウエの誤答が散見される。選択肢のどの表現が不適切なのか、解説をよく読んでおいてほしい。

五 〔採点基準〕

「a」魂を抜き取られる」という冗談を否定しなかったため b 母が病気になったのではないかと c 後悔する一方、d 好きな写真を断つて e 母の病気が良くなるよう f 願掛けをしようとしたから」を押さえて 12点

* a f 部各2点。

形の上では理由説明問題だが、実は指示語の内容を、本文を要約してまとめればよい問題なので、方向としてはだいたいよくできている。ただ、細かい表現の部分で点数に差が出た。「母が病気になったのは自分の言動が原因ではないかと自負し……」と書いた人がいるが、「自負」は〈自分の行動などに自信と誇りをもつこと〉である。

六 正答が一番多かったものの、アイエオにも答が分散した。表現の特徴についての問題は、選択肢が長くなることが多く、内容をしっかり比較しながら読解することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三 古文

一 四つとも正解できた人は、「に」の識別については自信をもつてよいだろう。aの「格助詞」が意外と盲点だったようで、ウエとした誤答が目につく。その結果、b c に入れるものがなくなってしまう、全体がガタガタになってしまったと思われる人もいる。品詞の識別は古文読解の基礎となるため、試験に頻出する。今回の「に」の識別はその代表なので、しっかり復習しておきたい。

二 1の「いうに」を「優に」と解釈するのは難しいだろうと予想していたが、やはりアウの誤答も多かった。イと答えた人は惜しい。言葉の意味としては誤りではないが、ここは〈式部に対する評価〉であることまで考えて判断したかった。

2も予想通りエの誤答が多いが、「こまやかにて」を「(とても行き届いた) 風情で」と解釈するのは意訳に過ぎるので、正解のイに及ばない。

三 〔採点基準〕

「a 保昌が式部を b 恋しく思う c 様子」を押さえて 6点

* a部3点、b部2点、c部1点。

この「思ひ」が〈恋愛感情〉であることはほとんどの人が押さえていたが、細かなところで差がついた。まず、設問には「人物関係がわかるように」とあるので、〈保昌が式部を(恋した)〉という二人の関係性を正しく示すことがまず重要。さらに、この「思ひの色」は、女院が保昌の気持ちを悟ることになった契機となるもので、〈表面に現れた 様子・気配〉であることまで明示したい。

四 〔採点基準〕

「a 保昌が、b 院の意向に遠慮して式部への恋心を打ち明けないで、c 神仏に祈って気持ちを抑えようとしたものの、d なお募る思いに苦しんでいると e 知ったから」と説明して 10点

* a e部1点、b c部3点、d部2点。

院が傍線部のように思った理由は、傍線部の直前に「……など申し上げれば」と理由を述べる表現があるので、保昌が申し上げた内容を要約すればよいとわかる。だから、本文全体の大意を押さえている人は、細かい表現での減点はあっても、だいたい得点できている。しかし、そもそも人物関係を読み取れなかった人も多く、あまりではよくない。〈保昌が女院に恋している〉などと誤解した人は、本文を最初から丁寧に読み直して、どこでそう読み違えることになったのか、確認しておいてほしい。

五 和歌の解釈に関する問題で、難しかったはずだが、意外と正答率は悪くない。あてずっぽうで選択した人もいるだろうが、〈一番それらしい選択肢を見抜く力〉も大切ではある。ただ、選択肢が受験者を引っかけないように作られている場合には通用しないので、そればかりに頼るのはやめよう。誤答はウエオに分散した。解説を参考に、誤答となるポイントを確認しておいてほしい。

六 設問に「相手にどのようにしてほしいと詠んでいるのか、『……てほしい。』につながる形で」とあるので、歌の句末の「なん」が〈他に対する自分の望みを表す終助詞「なん(なむ)」であることはすぐに見抜けるはずである。

〔採点基準〕

Y

〃 a 逢瀬の思いが冷めないうちにすぐ b 返事を送つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a 部4点、b 部3点。

句末に「文結ばなん」とあることから、〈手紙を送ってほしい〉という意味の歌であることをまず見抜く。さらに上の句から、〈夢のような逢瀬の気分が冷める前に〉などと補足説明をすればよい。

Z

〃 a ひとり寝の夜の b 袖を濡らす涙の多さを c 知つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a b 部各3点、c 部1点

こちらも句末に「知らなん」とあることから、何かを〈知ってほしい〉と訴えている歌であることを

まず見抜く。〈一人寝る夜の袖(を知ってほしい)〉の意味を正しく解釈するのは難しかったと思うが、解説をよく読んで、次に同じような問題が出たときには、きちんと対応できるようにしておこう。

四 漢文

一 特に c 「がえんぜず」ができていないものが目立った。「サ変動詞」という限定に答えようと「こせず」「ぜせず」などの読みを作り出している答案が見受けられた。重要語なので、しっかり押さえておくこと。

二 誤答が目立ったのはア。使役の句形の解釈が難しかったかもしれない。使役の助動詞「令」+動詞「還」+目的語「車」〃〈車を還させる〉という構造になっていることに気づけるかがポイントだった。

三 〔採点基準〕

〃 a 豈に b 必ずしも c 罪に伏せ a んや〃と書き下して 5点

* a b 部各2点、c 部1点。

反語の「豈に……んや」は押さえられているものが多かったが、完答できている答案は少なく、「必」を部分否定の「必ずしも」と読むことを押さえられていないものが目立った。全部否定と部分否定についてしっかり復習しておこう。

四 〔採点基準〕

〃 a 石渚よ、(お前は) b 執法官(政廷)の仕事に c 戻りなさい〃と訳して 7点

* a 部3点、b c 部各2点。

〈王が石渚に呼びかけている〉ことは押さえられても、「事」が何を指すか読み取れていないものが多かった。問題文全体の文脈を押さえて解釈する必要があるので、全訳を参考に、傍線部に至る流れを確認しておくこと。

五 〔採点基準〕

一

〃 a 殺人者は逮捕処刑されるという法を破ったので b 政廷として国法を守り死罪となった行為〃を押さえて 8点

* a 部3点、b 部5点。

二

〃 a 親を裁くことに耐えられないとの私情から、 b 殺人者である父を逮捕処刑しなかった行為〃を押さえて 8点

* a b 部各4点。

方向違いの答案も見られたが、問題文の内容をおおむね把握できていると思われる答案が多かった。ただ、「忠」と「孝」を整理して説明することは難しかったようだ。石渚は父の身代わりとして処刑されたのではなく、国法を守るために死罪となったのである。解説をよく読んで整理しておこう。